

伊東駅前広場整備に係る参考資料

<目 次>

<参考1> 伊東駅前ロータリーの現状と課題	・・・ 3
<参考2> 伊東駅周辺の事故発生状況	・・・ 7
<参考3> 交通量調査（再調査）の実施結果	・・・ 8
<参考4> 伊東駅前広場の必要規模	・・・ 13
<参考5> 駅前広場整備後の土地所有区分（予定）	・・・ 18
<参考6> 整備計画（案）に対する市民意見	・・・ 19
<参考7> 伊東らしさを感じられる施設の検討	・・・ 21
<参考8> 一般車ロータリー走行実験の実施結果	・・・ 22

<参考1> 伊東駅前ロータリーの現状と課題

■交通空間 <交通空間利用状況（現況写真） 参照>

<現状>

伊東駅前ロータリーは、バス・タクシー専用のロータリーであるが、一般車両も使用している状況である。

<課題>

- 通勤・通学の時間帯のピーク時に渋滞が発生する。<写真①>
- ロータリー内は、バス・タクシー・一般車両が輻輳し、接触の危険がある。<写真①>
- バスが停車場に停車できず、車道上で乗客が降り、車道を横断している状況が見受けられる。（混雑時）<写真②>
- バス乗車場は、駐車する際、前面道路で切り返し、バック入車にて駐車しており、機能的に利用しにくいだけでなく、利用者の安全性に問題がある。（過去に接触事故が発生）<写真③>
- 歩行者空間内に身障者用乗降場が設置されている。また、搬入車等の進入もある。<写真④>

<参考1> 伊東駅前ロータリーの現状と課題

■ 交通空間利用状況（現況写真）

写真① <ピーク時の利用状況>



写真② <バスの降車状況>



写真③ <バス乗車場への駐車状況>



写真④ <歩行空間の状況>



<参考1> 伊東駅前ロータリーの現状と課題

■ 広場空間 <広場空間現況図参照>

<現状>

利用者数に見合った面積が確保されていない。
(歩行者空間を含んだ広場空間スペース約600m²)

<課題>

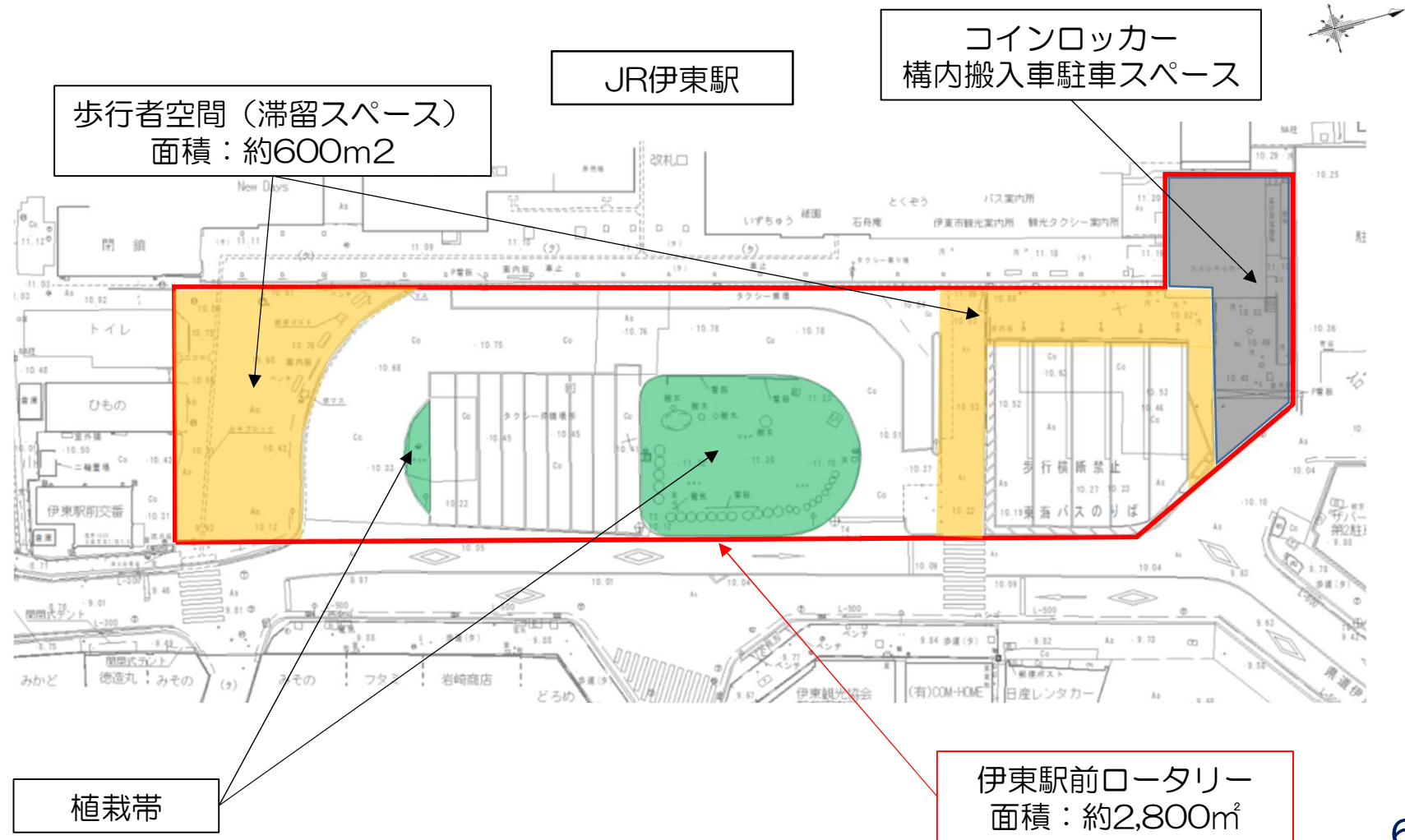
- 歩行者空間（滞留スペース）が狭い。
- ベンチ等が設置された、休憩できるスペースが少ない。
- 誰もが利用しやすい駅前広場としてユニバーサルデザインへの対応を図る必要がある。
- 歩行者空間内において、車両の出入りがある。
- 拠点として、「観光客等の市街地へ誘導」、「災害や緊急時などに活用」できるような整備を図る必要がある。

など

<参考1> 伊東駅前ロータリーの現状と課題

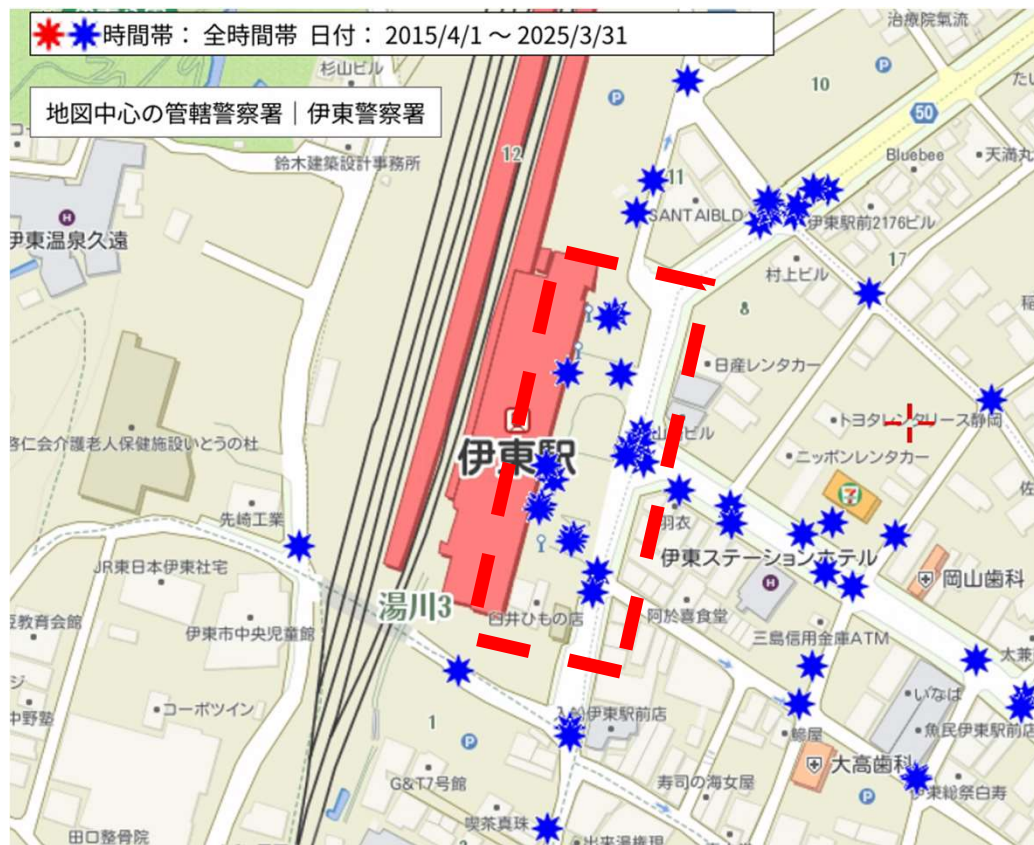
■ 広場空間現況図

<伊東駅前ロータリー（既設）>



<参考2> 伊東駅周辺の事故発生状況

■ 事故件数（平成27年度～令和6年度＜過去10年間＞）

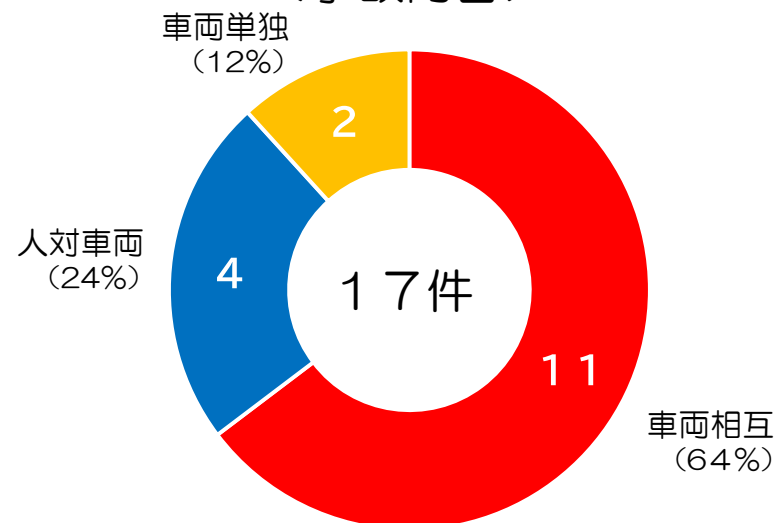


静岡県警察本部HP「事故事件発生マップ」より

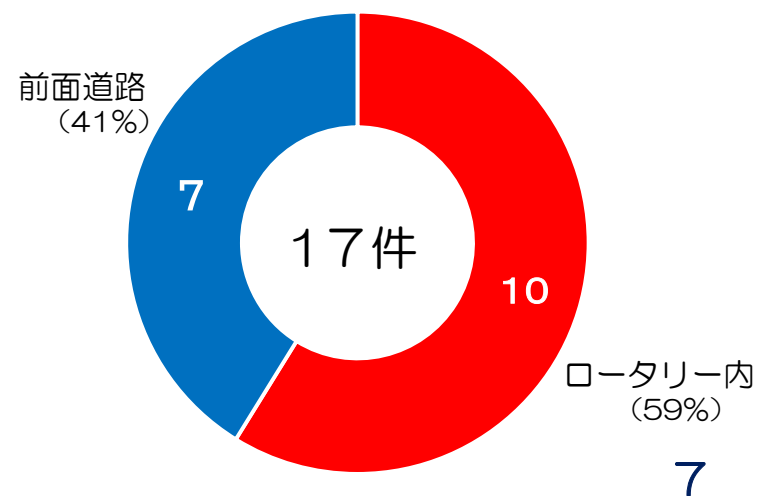
伊東駅前ロータリー及び伊東駅前面道路
事故件数計（過去10年間）17件

ロータリー内事故件数 > 道路事故件数
(10件) (7件)

<事故内容>



<事故発生場所>

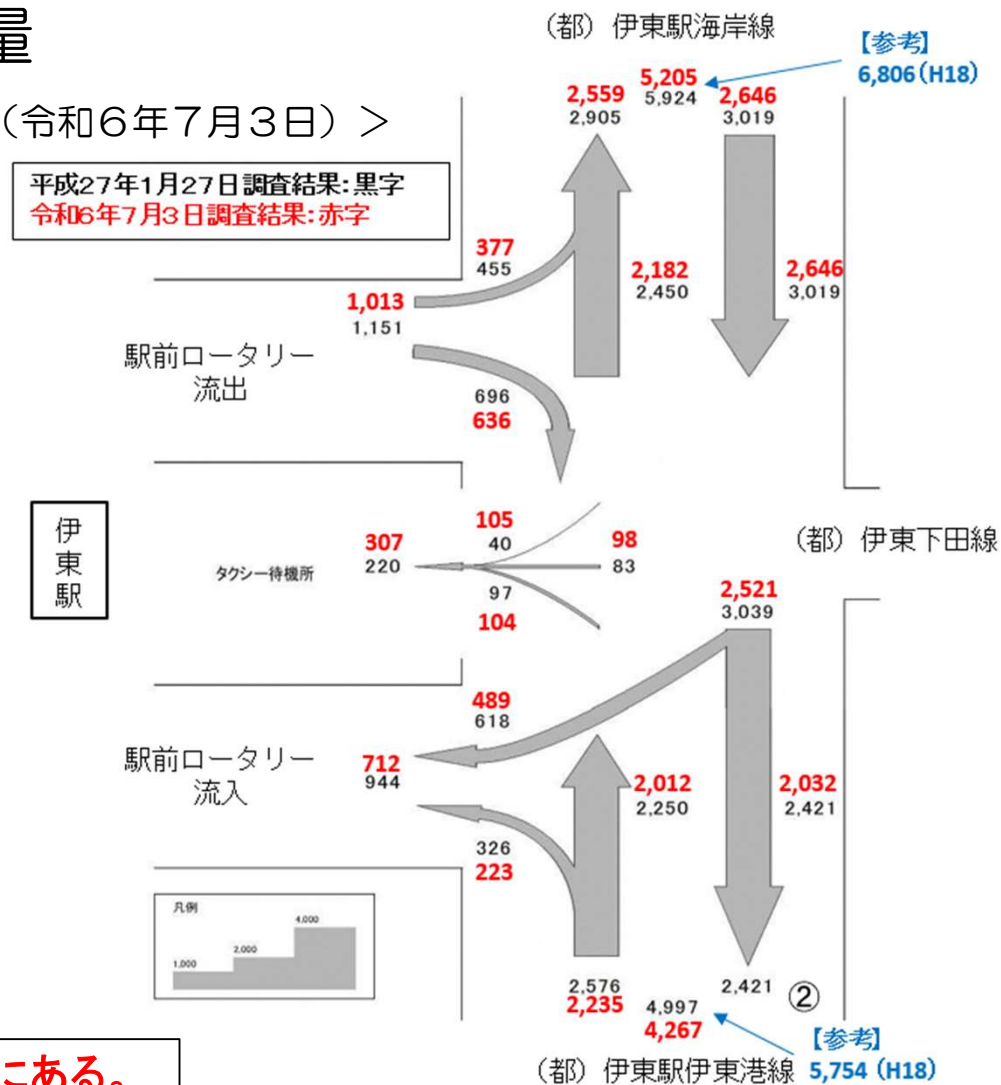


<参考3> 交通量調査（再調査）の実施結果

■実施日：令和6年7月3日（水）、7日（日）、9日（火）

■伊東駅前面道路の交通量

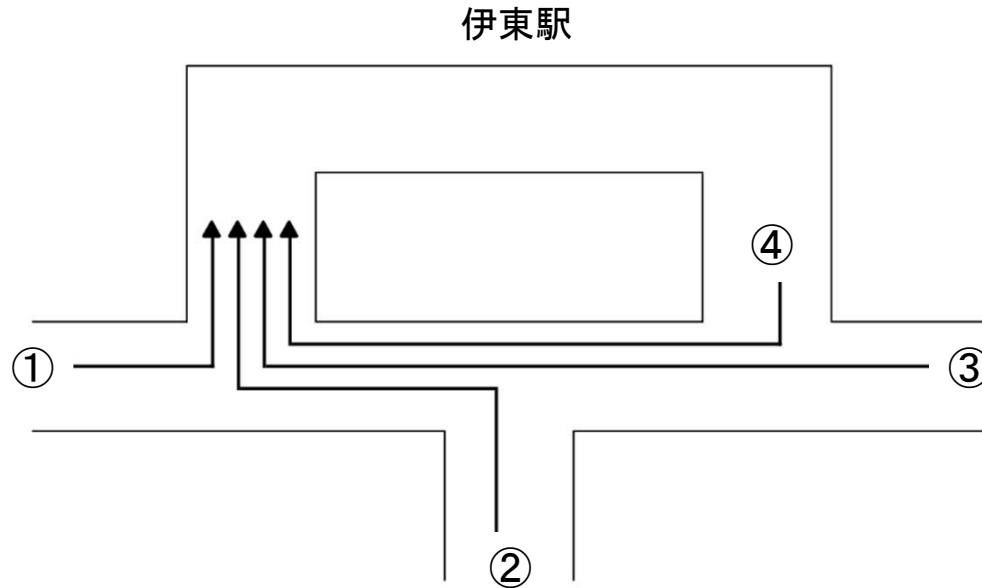
<7時～19時までの12時間交通量（令和6年7月3日）>



※駅周辺の交通量は年々減少傾向にある。

<参考3> 交通量調査（再調査）の実施結果

■ 各路線からの駅前ロータリーへの進入状況



- ①：（都）伊東駅伊東港線方面（旧西口線方面）
- ②：（都）伊東下田線方面（伊東大川方面）
- ③：（都）伊東駅海岸線方面（海岸方面）
- ④：駅前ロータリー（まわり直し）

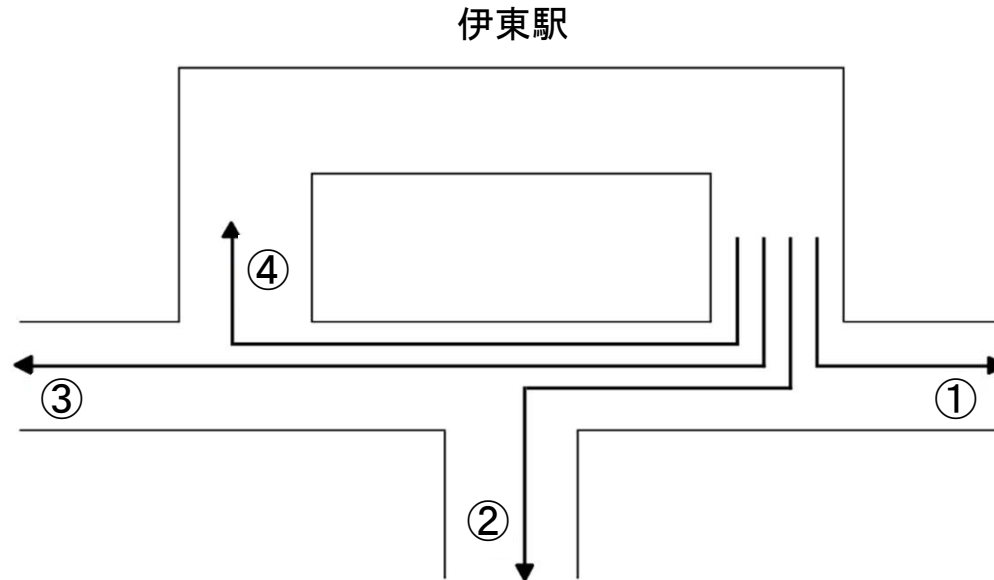
進入方向	車両全体		営業車のみ		一般車のみ	
	台数 (台/12時間)	割合 (%)	台数 (台/12時間)	割合 (%)	台数 (台/12時間)	割合 (%)
①	327	32.1	103	28.4	224	34.2
②	378	37.1	161	44.3	217	33.1
③	292	28.6	89	24.5	203	30.9
④	22	2.2	10	2.8	12	1.8
合 計	1019	100.0	363	100.0	656	100.0

<考察>

- ・ 既設ロータリーの利用台数及び割合
 営業車：363台/12時間（36%）
 一般車：656台/12時間（64%）
- ・ 営業車の進入は②方向からの進入が最も多い。
- ・ 一般車については、各路線から平均して進入している。

<参考3> 交通量調査（再調査）の実施結果

■ 駅前ロータリーから各路線への退出状況



- ①：（都）伊東駅海岸線方面（海岸方面）
- ②：（都）伊東下田線方面（伊東大川方面）
- ③：（都）伊東駅伊東港線方面（旧西口線方面）
- ④：駅前ロータリー（まわり直し）

退出方向	車両全体		営業車のみ		一般車のみ	
	台数 (台/12時間)	割合 (%)	台数 (台/12時間)	割合 (%)	台数 (台/12時間)	割合 (%)
①	377	37.2	155	43.3	222	33.9
②	418	41.3	108	30.2	310	47.3
③	196	19.3	85	23.7	111	17.0
④	22	2.2	10	2.8	12	1.8
合 計	1013	100.0	358	100.0	655	100.0

<考察>

- ・ 既設ロータリーの退出台数及び割合
 営業車：358台/12時間（35%）
 一般車：655台/12時間（65%）
- ・ 営業車の退出は①方向への退出が最も多い。
- ・ 一般車の退出は②方向への退出が最も多い。

<参考3> 交通量調査（再調査）の実施結果

■ 駅前ロータリー利用状況（一般車のみ：ピーク時）

<朝のピーク時間帯>

時間帯	R6. 4. 16（火） 【参考】		R6. 7. 3（水）		R6. 7. 9（火）	
	乗用車 【台】	台/10分 算出	乗用車 【台】	台/10分 算出	乗用車 【台】	台/10分 算出
6：00～6：15	35	24	22	15	—	—
6：15～6：30	65	44	58	39	—	—
6：30～6：45	84	56	98	66	—	—
6：45～7：00	12	8	8	6	—	—
1時間計	196	33	186	31	—	—
7：00～7：15	51	34	57	38	—	—
7：15～7：30	17	12	13	9	—	—
7：30～7：45	35	24	32	22	—	—
7：45～8：00	23	16	19	13	—	—
1時間計	126	21	121	21	—	—
8：00～8：15	—	—	11	8	—	—
8：15～8：30	—	—	1	1	—	—
8：30～8：45	—	—	14	10	—	—
8：45～9：00	—	—	13	9	—	—
1時間計	—	—	39	7	—	—

<夕方のピーク時間帯>

時間帯	R6. 4. 16（火） 【参考】		R6. 7. 3（水）		R6. 7. 9（火）	
	乗用車 【台】	台/10分 算出	乗用車 【台】	台/10分 算出	乗用車 【台】	台/10分 算出
18：00～18：15	11	8	7	5	12	8
18：15～18：30	18	12	10	7	16	11
18：30～18：45	26	18	27	18	24	16
18：45～19：00	24	16	7	5	10	7
1時間計	79	14	51	9	62	42
19：00～19：15	16	11	12	8	11	8
19：15～19：30	22	15	12	8	23	16
19：30～19：45	6	4	8	6	7	5
19：45～20：00	28	19	12	8	32	22
1時間計	72	33	44	8	73	13
20：00～20：15	7	5	6	4	8	6
20：15～20：30	8	6	20	14	15	10
20：30～20：45	6	4	—	—	5	4
20：45～21：00	12	8	—	—	8	6
1時間計	33	33	—	—	36	6
21：00～21：15	6	4	—	—	2	2
21：15～21：30	13	9	—	—	13	9
21：30～21：45	—	—	—	—	3	2
21：45～22：00	—	—	—	—	15	10
1時間計	—	—	—	—	33	6

<考察>

- ・ロータリーの利用状況については、過年度の調査結果と大きな変化はなし。
- ・夕方のピークは、学生の帰宅時間に大きく左右されるため日によって変動する。

<参考3> 交通量調査（再調査）の実施結果

■ 駅前面道路の渋滞に関して（再調査結果を踏まえた考察）

- 整備により、営業車と一般車を完全分離する計画であり、整備後、一般車ロータリーへの進入台数は、現在の台数に比べ、約35%減少する。
- これまでは、ロータリーのピーク時には路線バスが車道に停車し、利用者が降車していたため、ロータリーに入れない車両が前面道路に滞留することとなり、渋滞の原因となっていたが、一般車専用のロータリーにすることで、渋滞の発生緩和を図ることができると考える。



ロータリー状況写真①（朝）



ロータリー状況写真②（夕方）

<参考4> 伊東駅前広場の必要規模

■施設規模の算定

駅前広場計画指針（建設省都市局都市交通調査室監修）により算定。

【駅前広場計画指針とは】

駅前広場が交通空間と環境空間（一部歩行者空間面積が重複する）で構成されるとし、将来予測等で求めた駅前広場総利用者数から各施設の面積を求め、それらを合算した面積をベースに駅前広場基準面積を算定する方法。

■将来の駅前広場総利用者数の考え方

将来の駅前広場総利用者数＝伊東駅の将来乗降客数　とした。

■伊東駅の将来乗降客の予測

駅前広場計画の目標年次は、駅前広場計画指針及び都市施設の計画年次である、**おおむね20年後（2041年）を想定**。（2021年時点）

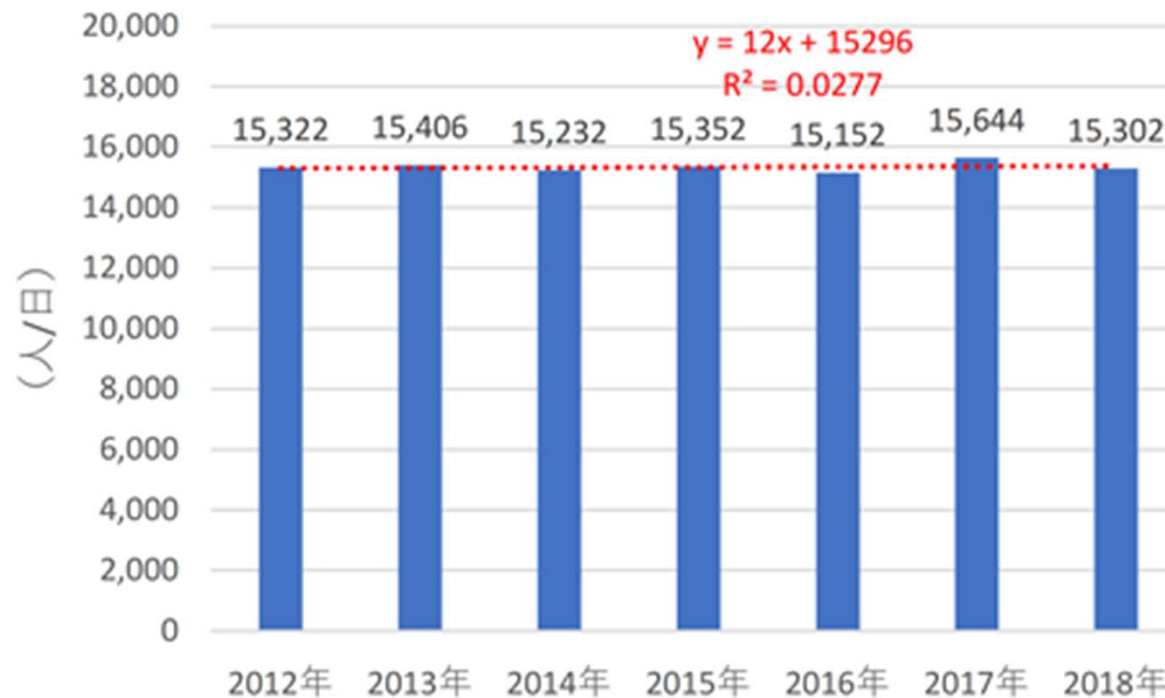
伊東駅の将来乗降客数：**静岡県統計年鑑が公開している乗降客数**から近似曲線により推計。（なお、静岡県統計年鑑は乗車人数となっていることから、乗車人数を2倍して乗降客数とした。）

<参考4> 伊東駅前広場の必要規模

■将来乗降客数の算定結果

<近似式による算定の結果>

伊東駅の将来乗降客数を15,000 (人/日)とした。

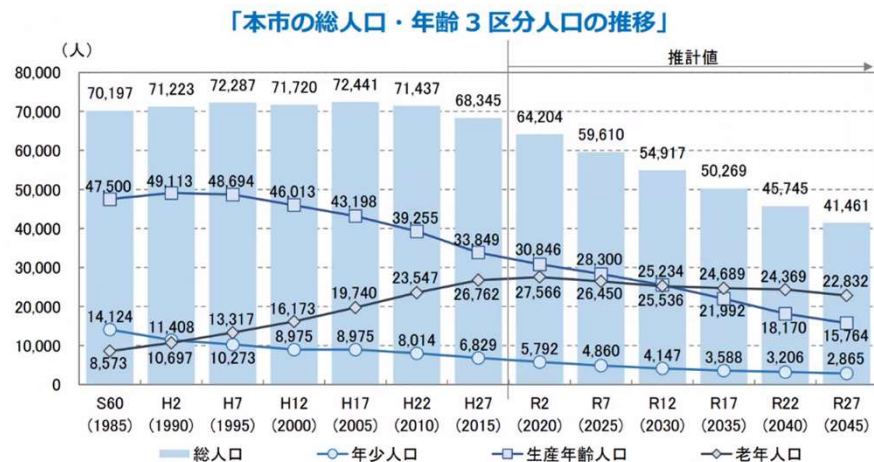


出典：「静岡統計年鑑」

※2011年の東日本大震災、2019年以降のコロナウィルスの影響を控除

<参考4> 伊東駅前広場の必要規模

■本市の人口

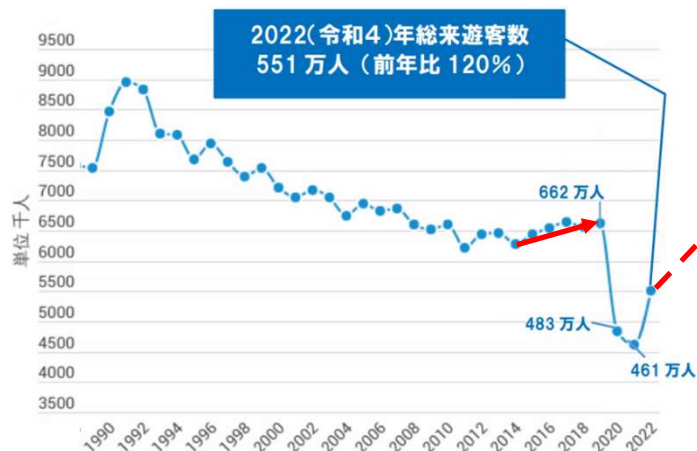


出典：「伊東市立地適正化計画」

- 本市の今後も人口減少すると推計される。
- 令和5年3月に「伊東市立地適正化計画」を策定し、市街地に設定した居住誘導区域内の人口密度の維持を目指す。

将来、乗降客数が維持されるもの考える。

■本市の来遊客数



- 観光客数は平成26年から回復基調に転じていたものの、コロナ禍により大幅に減少したが、令和4年には551万人まで持ち直してる。
- 令和6年3月に「第4次伊東市観光基本計画」を策定し、観光施策を推進することで、来遊客数の増加を目指す。

●目標値

指標	指標の内容、出所等	現状 (2022年度)	目標値 (2028年度)
年間来遊客数	鉄道利用者、自家用車の通過台数等に一定の率をかけて算出(推定値)	578万人	740万人

出典：「第4次伊東市観光基本計画」

<参考4> 伊東駅前広場の必要規模

■ 施設規模の比較

<施設規模比較表>

■ 将来の駅前広場総利用者数を15,000 (人/日)とし、駅前広場の施設規模を算定。

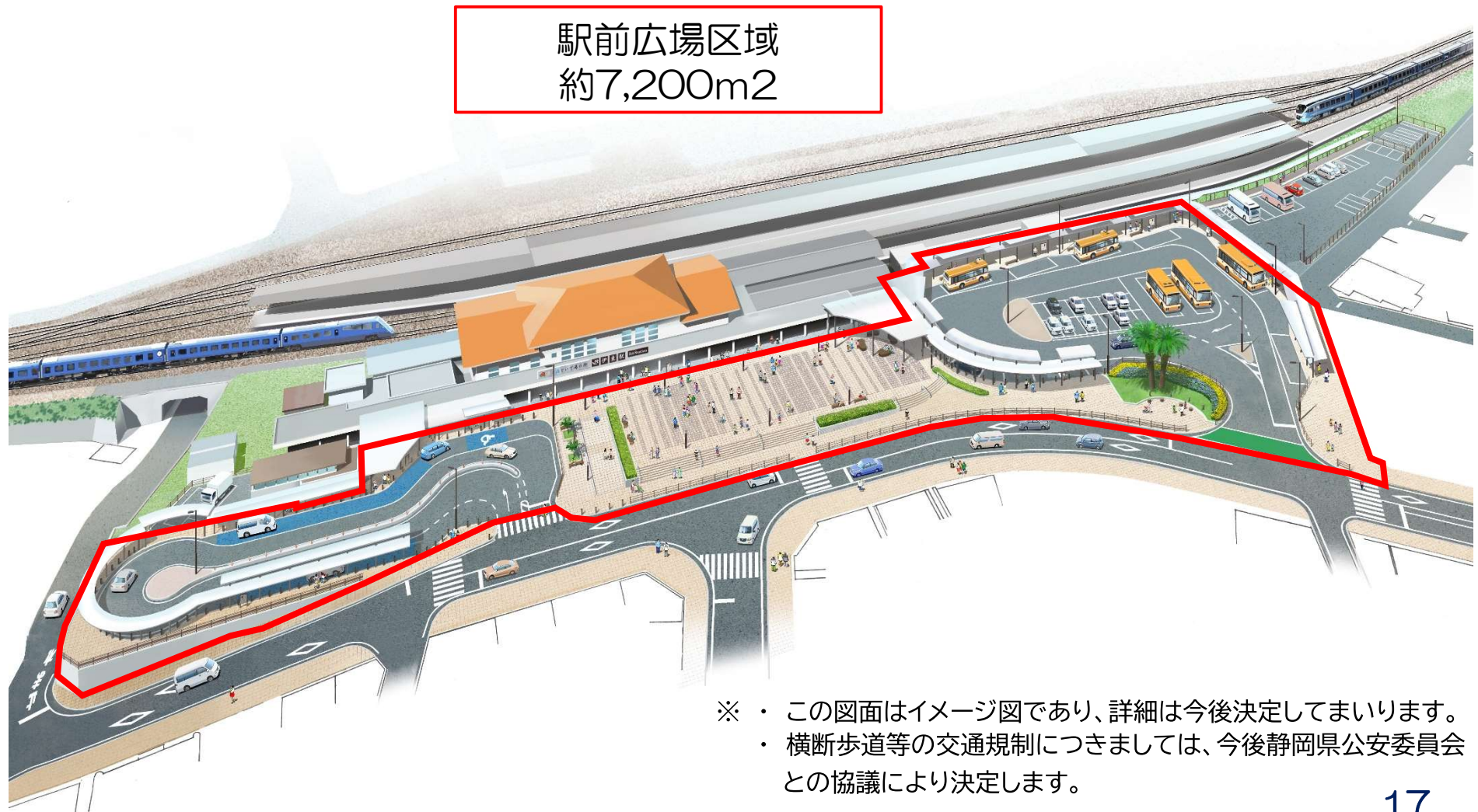
項 目	現況の施設規模		駅前広場計画指針による施設規模		整備計画（案）における施設規模	
	台数	面積 (㎡)	台数	面積 (㎡)	台数	面積 (㎡)
バス関連	乗車 6 降車 1	650	乗降 5 降車 1	453	乗降 6 待機 2	720
タクシー関連	小型乗車 2 中型乗車 2		乗車 1 降車 1	50	乗車 2 降車 1 身障者用 1	120
	プール 27	320	プール 8	240	プール 18	310
一般車関連	—	—	乗降 5 身障者用 1	130	乗降 6 身障者用 1	250
車道面積	—	580	—	1,490	—	1,960
歩道面積	—	1,250 (コインロッカー等：310㎡含む)	—	2,363	—	3,840
環境空間関連面積	—		—		—	
交通空間面積	—	1,550	—	2,363	—	3,360
環境空間面積	—	1,250	—	2,363	—	3,840
駅前広場総面積	—	2,800	—	4,726	—	7,200
環境空間比	—	0.44	—	0.50	—	0.53

※乗降台数：駅前広場設計指針による算定結果を基に、交通事業者との協議や、実態調査により乗降台数を決定。

※面積：必要となる面積を積上げ算定。（駅前広場の形状等の理由から、各スペース面積が増となる。）

<参考4> 伊東駅前広場の必要規模

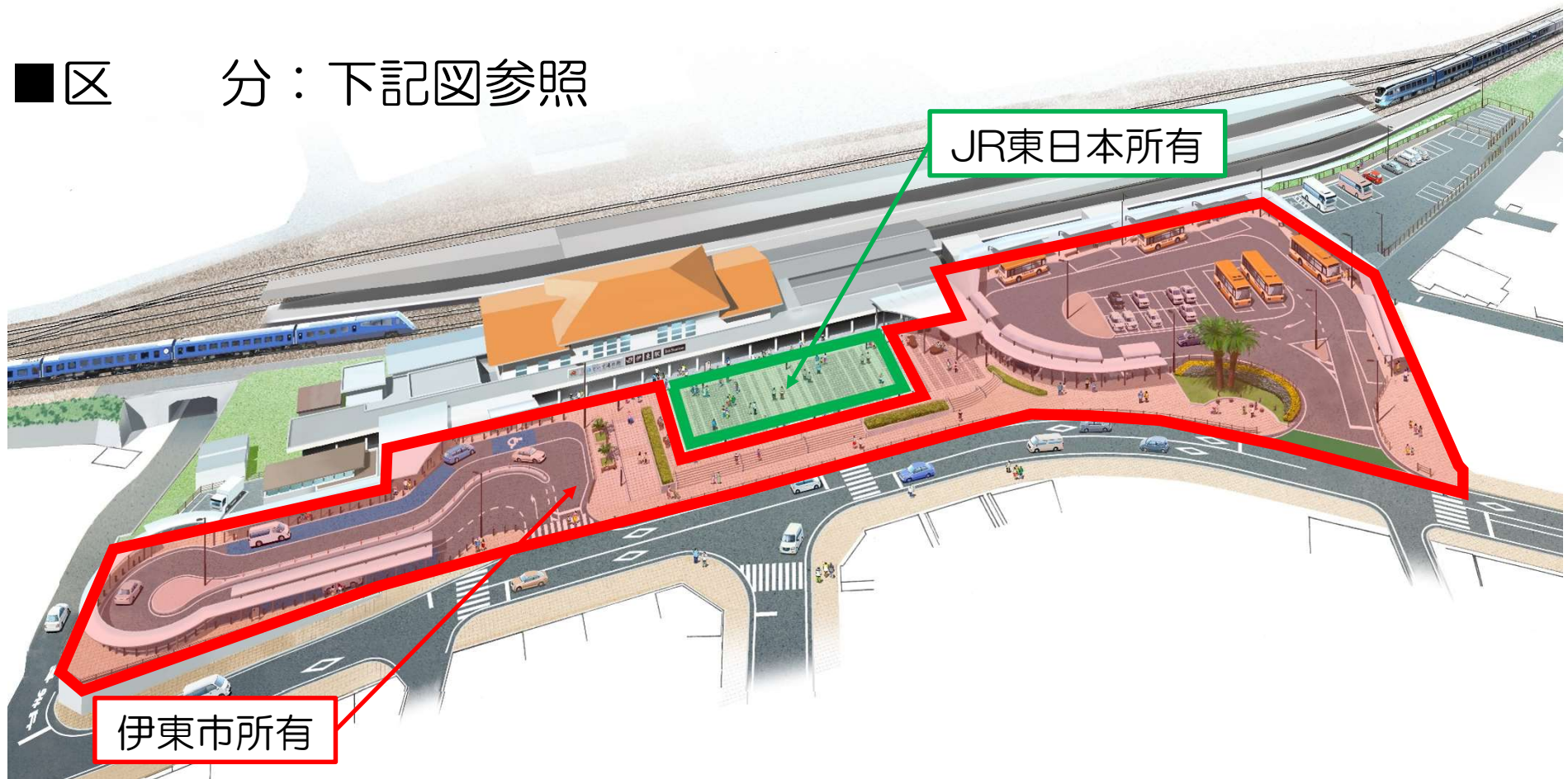
■伊東駅前広場の必要面積



<参考5> 駅前広場整備後の土地所有区分（予定）

■土地所有：伊東市・JR東日本

■区 分：下記図参照



- ※・伊東駅前広場の整備にあたり、「都市計画による駅前広場の造成に関する協定（昭和62年4月1日成立 建設省・運輸省協定）」が適用される。
- ・上記土地所有区分は当該協定に係るJR東日本との協議結果に基づき設定。
 - ・管理に関する詳細は、別途管理協定を締結し決定する。

<参考6> 整備計画（案）に対する市民意見

■市民意見の聴取

- ① パブリックコメント（令和6年1月4日から令和6年2月2日まで）
- ② 住民説明会（令和6年3月8日、10日）
- ③ その他メール等

■市民意見一覧（要約）

番号	内 容	意見要約
1	駅前広場の必要性について	・ 今後人口減少や路線バスの減便、タクシー台数が減少していく中で駅前広場の整備を行う必要があるのか 等
2	基本レイアウトについて	・ 整備整備計画（案）の配置が本当に理想の配置なのか 等
3	営業車ロータリーについて	・ 配置やその必要性について 等
4	一般車ロータリーについて	・ 配置や乗降場台数、形状について ・ 歩行者の安全確保について 等
5	その他交通空間について	・ バス、タクシー、一般車の送迎を1番に考えるべき 等
6	広場空間について	・ 広場が広すぎるのではないかと 駅前真ん中を広場にする必要はない ・ 広場の活用について 降雨時に使用できない 等
7	導入する施設について	・ 伊東らしさがない 夫婦ヤシを残すべき ・ 温泉施設等の設置について 等

<参考6> 整備計画（案）に対する市民意見

番号	内 容	意見要約
8	駐車場について	・ 駐車場の無料時間の延長について ・ 駐車場までの通路について 等 ・ 駐車場台数について
9	ユニバーサルデザインについて	・ バリアフリーの対応について
10	広場等の2層化について	・ 広場の2層化について ・ 伊東公園側への連絡通路の設置について
11	眺望（景観）について	・ 駅から海岸線に向けた眺望の確保について
12	賑わいの創出について	・ 観光や産業も含め計画していくべき 等
13	観光・まちづくりについて	・ インバウンドを意識した計画とすべき ・ 観光客や市民の楽しみや安心の場所としての改変 等
14	安全防災広場づくりについて	・ 過去の地震津波を考慮すると駅前に防災拠点を設けるのは厳しいのではないかと ・ 雨露しのげない 等
15	街区整備について	・ 周辺地区の再整備の状況について ・ 駅前広場の整備と街区の整備を同時に進める必要があるのではないか 等
16	伊東駅・伊東港線（通称：西口線）について	・ 駅前広場に繋がる伊東駅・伊東港線（通称：西口線）も拡幅整備すべき ・ 主要な軸（コンセプト）に伊東港線（通称：西口線）も入れるべき 等
17	新たな交通手段について	・ 新たな交通手段を検討すべき
18	その他	・ 交番の移転先について ・ 現状の交通空間の改善について 等

⇒ 再度検討すべきもの、別途関係部署と連携し検討すべきもの等整理を行い、整備計画（案）の再検討を令和6年度に実施。

<参考7> 伊東らしさを感じられる施設の検討

■市民意見

「伊東らしさ」を感じられる施設が望まれている。

■意見のあったモニュメント施設

①夫婦ヤシ ②伊東祐親公像 ③温泉施設

■モニュメント施設の再検討結果（比較表）

	①「夫婦ヤシ」	②「伊東祐親公像」	③「温泉施設」
これまでの検討結果	・スペース的な問題 ・異なる場所への移植が困難 ⇒候補から除外	・サイズやスペース的な問題 ・伊東駅周辺に伊東祐親公ゆかりの場所がない ⇒候補から除外	・温泉の確保、衛生面、維持管理及びスペース的な問題 ⇒候補から除外
再検討（考察）	・伊東を訪れた際の印象として夫婦ヤシの印象が大きく残る。 ・夫婦ヤシ＝伊東らしさに繋がる（スペイン瓦の大屋根が特徴の伊東駅舎と夫婦ヤシが伊豆のリゾート地らしい雰囲気を作り出している。） ・夫婦ヤシ以外の植栽の移植については、スペースや今後の維持管理を考え、造園事業者に相談し決定する。	・これまでの検討結果と同様。	・伊東らしさ＝温泉と考える方が多く、温泉情緒を表現するため、温泉施設を望む声がある。 ・温泉管理者等への聞き取り調査（再調査）の結果、湯量の問題で温泉の提供を受けることが困難。
結果	◎ （駅前広場内に移植）	× （適していない）	× （温泉の確保が困難）
備考	・見通しの確保やスペース的な部分で、設置できる場所が限られる。	・設置場所として物見塚公園の方が適している。	・今回導入はできないが、将来的な導入について継続的に検討する。

<参考8> 一般車ロータリー走行実験の実施結果

■実施日：令和6年7月17日（水）、18日（木）

■場 所：旧西小学校グラウンド

■車 種：軽自動車、普通自動車、3 tトラック

■立 会：伊東警察署交通課



■結 果：走行性に問題ないことを確認。